

G X 形ダクタイル鉄管接合用

# G X 形チェーンレバーホイスト

## 取扱説明書

呼び径 75 ~ 250 用

 **ご使用前に必ずお読みください**

購入年月日： \_\_\_\_\_ 年 月 日

お買い上げ店名： \_\_\_\_\_

—お願い—

- この取扱説明書はお使いになる方に必ずお渡してください。
- 安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みください。
- この取扱説明書は、お使いになる方が必要なときにいつでも見られるところに大切に保管してください。

この取扱説明書は、G X 形チェーンレバーホイストを正しく、安全に使用していただくための注意事項を記載したものです。(誤った使用方法は、事故・けがの原因となります)

本取扱説明書は、G X 形ダクタイル鉄管の接合要領そのものに関しては、お客様が理解されているものとした上で、接合工具の使用法と使用上の注意に限定しています。

\*本書の記載事項は、予告無く変更することがあります。20211013

## ○安全にご使用頂くための注意事項

 **警告** このマークは、その事項を守らないと使用者または第三者が、死亡または重傷を負う危険性がある内容を示します。

 **注意** このマークは、その事項を守らないと使用者または第三者が、傷害を負ったり、物的な損害が発生する可能性のある内容を示します。

なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので必ず守って下さい。

 <b>警告</b>	
○	本製品はG X形ダクタイトイル鉄管（直管受口及びP-Link）を接合するためのレバーホイスです。本製品をG X形ダクタイトイル鉄管の接合以外の用途に使用される場合の取扱いは、レバーホイス本体（バイタル工業株式会社製 NR <sub>2</sub> -08）の取扱説明書に従って下さい。
○	作業の際は安全靴・ヘルメット・保護手袋等を着用して下さい。
○	レバーホイスに定格荷重0.8tf以上の荷重を加えないで下さい。
○	レバーを故意に長くして使用しないで下さい。
○	荷重超過により、部品に変形が生じたものは使用しないで下さい。
○	使用前には必ず点検を行い、部品の変形など異常があった場合は使用しないで下さい。
○	上下フックとチェーンが曲がらずに一直線になるように使用して下さい。
○	チェーンがねじれたり、キンクしたままで使用しないで下さい。
○	巻下げすぎ、巻上げすぎにならよう注意して下さい。
○	管の接合途中、レバーホイスが負荷状態にあるとき、接合しようとする管を大きく揺らさないで下さい。
○	レバーホイスに足などを引っ掛けて転倒しないよう注意して下さい。
 <b>注意</b>	
○	レバーホイス2台を用いた接合では、片引きにならないように、各レバーホイスを均等に操作して下さい。
○	傷付き防止用ゴム取り付けねじが緩んだ状態で使用しないで下さい。
○	レバーホイスの取り付け・取り外し時には、レバーホイスの落下に注意して下さい。
○	直射日光を避け、湿気のないところに吊るして保管して下さい。
○	接合時に管の外面塗装を損傷した場合は、「G X形ダクタイトイル鉄管接合要領書」に従った補修を行って下さい。
○	使用方法に関してご不明な点がある場合、お買い上げ店までお問い合わせ下さい。

(目次)

1. GX形ダクタイル鉄管（直管受口及びP-Link）の接合工具	3
2. GX形チェーンレバーホイストの仕様・各部名称	3
3. GX形チェーンレバーホイストによる接合方法	4
3. 1 GX形チェーンレバーホイストの使用台数	4
3. 2 GX形チェーンレバーホイストの使用法	5
3. 3 直管の接合方法	6
3. 4 短管の接合方法	7
3. 5 異形管の接合方法	8
3. 6 P-Linkの取り付け方法	9

## 1. GX形ダクタイル鉄管（直管受口及びP-Link）の接合工具

GX形ダクタイル鉄管の直管受口の接合及びP-Linkの取り付けには、以下の工具が必要です。

本製品以外の工具に関しては、別途、ご準備下さい。

必要工具の詳細に関しては、「GX形ダクタイル鉄管接合要領書」をご参照下さい。

- |                        |    |
|------------------------|----|
| ① GX形チェーンレバーホイスト（本製品）  | 2台 |
| ② スリングベルト（別売品）※        | 4本 |
| ③ ゴム輪位置チェックゲージ（別売品）    | 1個 |
| ④ トルクレンチ（別売品）          | 1個 |
| ⑤ 隙間ゲージ（厚さ0.5 mm）（別売品） | 1個 |

※ 全呼び径（75～250）に対応可能なGX形スリングベルトのご使用をお勧めします。

**⚠ 警告** GX形チェーンレバーホイストを用いた接合には、最大使用荷重 0.8tf 以上のスリングベルトを使用して下さい。また、取扱いについては使用するスリングベルトの取扱説明書に従って下さい。

## 2. GX形チェーンレバーホイストの仕様・各部名称

本体	:	バイタル工業株式会社製 NR <sub>2</sub> -08
定格荷重	:	0.8 tf
傷付き防止用養生ゴム	:	厚さ 8 mm
フックカバー	:	幅 105 mm×長さ 250 mm（ポリエステル製）

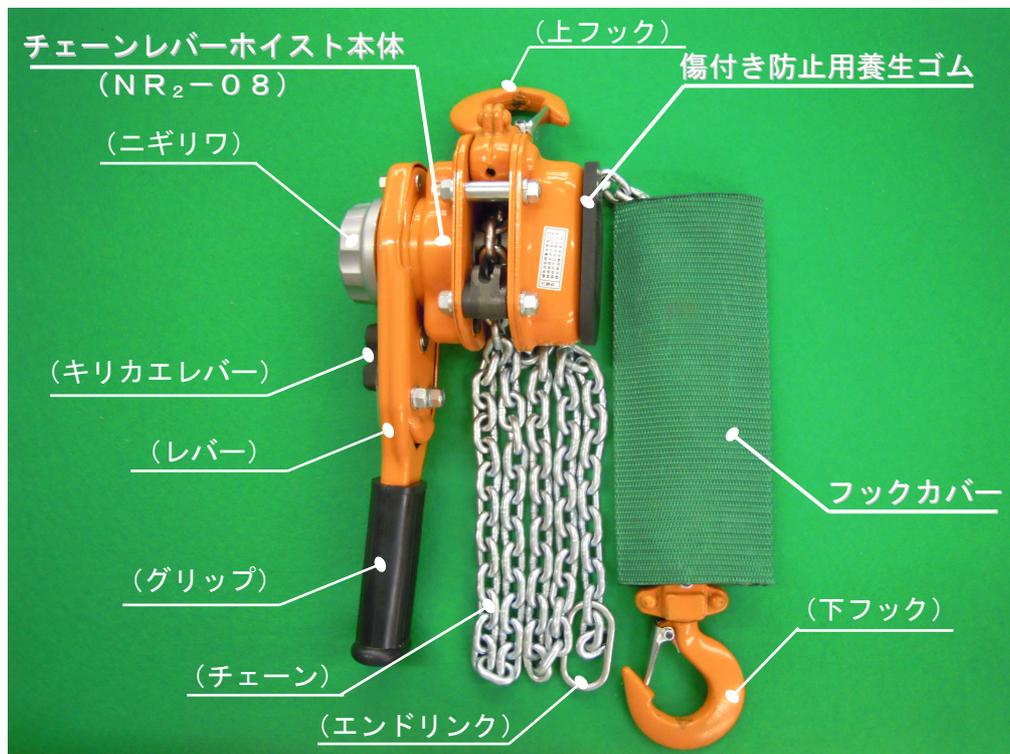


写真1 GX形チェーンレバーホイストの各部名称

### 3. GX形チェーンレバーホイストによる接合方法

#### 3. 1 GX形チェーンレバーホイストの使用台数

接合する継手の形態により、使用するGX形チェーンレバーホイストの台数は異なります。標準的な接合方法におけるGX形チェーンレバーホイスト使用台数は表1のとおりです。

表1 GX形チェーンレバーホイストの使用台数

		挿し口側管種			
		直管	短管	異形管	切管
受口側管種	直管 既設短管※1	1台 (1点引き)	2台 (2点引き)	2台※2 (2点引き)	—
	短管	2台 (2点引き)	2台 (2点引き)	2台 (2点引き)	—
	P-Link	—	—	—	2台 (2点引き)

※1. 既設短管とは、既に固定されている短管で接合時に動かないものを指します。

※2. 呼び径75及び呼び径100の場合、1台(1点引き)での接合が可能です。



**注意** 2点引きによる接合時は片引きにならないように、各GX形チェーンレバーホイストを均等に操作して下さい。片引きの場合、正常な接合が出来ない場合があります。



**注意** 継手接合手順の詳細に関しては、「GX形ダクタイル鉄管接合要領書」をご参照下さい。

### 3. 2 G X形チェーンレバーホイストの使用法

#### (1) 接合継手へのセット

- ① 受口側と挿し口側に巻き付けたスリングベルトのアイに、G X形チェーンレバーホイストの上下フックを掛けます。ただし、P-Linkの取り付け時には、上フックをP-Link本体に設けられたあなに掛けて下さい。
- ② G X形チェーンレバーホイストの下フック部分にフックカバーを被せます。
- ③ ダクタイル鉄管の外面塗装の損傷を防ぐため、G X形チェーンレバーホイストは傷付き防止用養生ゴム面が管外面と接触するように配置して下さい。



写真2 G X形チェーンレバーホイストのセット状態

#### (2) 巻上げ操作

- ① G X形チェーンレバーホイストのキリカエレバーを左（UP）方向にします。
- ② グリップを往復運動させ、チェーンを巻上げます。
- ③ 負荷がかかるまでにチェーンが弛んでいる時は、ニギリワを時計方向に回すことでチェーンの弛みがとれます。

#### (3) 巻下げ操作（無負荷状態への変更）

- ① G X形チェーンレバーホイストのキリカエレバーを右（DOWN）方向にします。
- ② グリップを往復運動させれば、巻上げたチェーンが緩みます。

#### (4) 空転操作（無負荷状態でのチェーンの長さ調整）

- ① G X形チェーンレバーホイストのキリカエレバーを中央の位置（N）に合わせます。自動空転式のため、キリカエレバーを中央の位置（N）に合わせるだけでチェーンの長さ調節ができます。
- ② 空転操作がしにくい場合は、キリカエレバーを右（DOWN）方向にしてからハンドルを1～2回動かしてから、再度キリカエレバーを中央の位置（N）に戻して下さい。

※空転時でも、チェーンを強く引くと、ブレーキが締まりチェーンは動きません。

#### (5) 使用後の処理

- ① 使用後は、汚れや水気をよく拭き取り、チェーン、フックの回転部分に油をさして下さい。
- ② 直射日光を避け、湿気のないところに、吊るして保管して下さい。



**注意** 継手接合手順の詳細に関しては、「G X形ダクタイル鉄管接合要領書」をご参照下さい。

### 3. 3 直管の接合方法

直管の接合は、1点引きで行います。

スリングベルトを受口側と挿し口側にそれぞれ1本ずつ巻き付けます。このとき、挿し口側のスリングベルトは、管体に明示された2本の白線よりも外側に巻き付けます。

受口側と挿し口側それぞれに巻き付けたスリングベルトのアイにGX形チェーンレバーホイストのフックを掛けて巻上げます。

接合に必要な力が大きく、GX形チェーンレバーホイスト1台での接合が困難な場合は、次頁に示す短管の接合を参考に、GX形チェーンレバーホイスト2台による接合を行って下さい。

GX形チェーンレバーホイストを2台使っても接合が困難な場合は、継手の異常が考えられます。接合を直ちに中止し、継手や接合状態の確認（ゴム輪が正常な位置に取り付けられているか、ロックリングが正常な位置に取り付けられているか、滑剤が正常に塗布されているか、継手が屈曲していないかなど）を行って下さい。



写真3 1点引きによる直管の接合（呼び径 250）

**警告** スリングベルトは最大使用荷重 0.8tf 以上のものを使用して下さい。また、取扱いについては使用するスリングベルトの取扱説明書に従って下さい。

**警告** 管の接合途中、GX形チェーンレバーホイストが負荷状態のまま、接合しようとする管を大きく揺らさないで下さい。過大な負荷により、GX形チェーンレバーホイストが破損し重大災害を引き起こす恐れがあります。

**注意** 継手接合手順の詳細に関しては、「GX形ダクトイル鉄管接合要領書」をご参照下さい。

### 3. 4 短管の接合方法

直管と短管の接合や短管同士の接合は、1点引きでは継手が屈曲してしまうため困難です。よって、短管の接合は2点引きで行います。

スリングベルトを受口側と挿し口側にそれぞれ2本ずつ巻き付けます。2本のスリングベルトは、それぞれのアイが管の左右に来るように巻き付けて絞ります。このとき、挿し口側のスリングベルトは、管体に明示された2本の白線よりも外側に巻き付けます。

管の左右に1台ずつG X形チェーンレバーホイストを取り付け、両側のG X形チェーンレバーホイストを均等に巻上げます。

狭い溝内での接合で、管の横側にG X形チェーンレバーホイストが配置できない場合には、受口側に巻き付けた2本のスリングベルトのアイをそれぞれ時計の2時と10時の位置になるように絞り、管斜め上でG X形チェーンレバーホイストを操作します（写真4参照）。



写真4 2点引きによる短管の接合（呼び径 250）

**警告** スリングベルトは最大使用荷重 0.8tf 以上のものを使用して下さい。また、取扱いについては使用するスリングベルトの取扱説明書に従って下さい。

**警告** 管の接合途中、G X形チェーンレバーホイストが負荷状態のまま、接合しようとする管を大きく揺らさないで下さい。過大な負荷により、G X形チェーンレバーホイストが破損し重大災害を引き起こす恐れがあります。

**注意** 2点引きによる接合時は片引きにならないように、各G X形チェーンレバーホイストを均等に操作して下さい。片引きの場合、正常な接合が出来ない場合があります。

**注意** 継手接合手順の詳細に関しては、「G X形ダクトイル鉄管接合要領書」をご参照下さい。

### 3. 5 異形管の接合方法

異形管の接合は、短管の接合同様に2点引きで行います。

スリングベルトを受口側と異形管側にそれぞれ2本ずつ巻き付けます。2本のスリングベルトは、それぞれのフック掛け用アイが管の左右に来るように巻き付けて絞ります。

管の左右に1台ずつGX形チェーンレバーホイストを取り付け、両側のGX形チェーンレバーホイストを均等に巻上げます。

狭い溝内での接合で、管の横側にGX形チェーンレバーホイストが配置できない場合には、受口側に巻き付けた2本のスリングベルトのアイをそれぞれ時計の2時と10時の位置になるように絞り、管斜め上でGX形チェーンレバーホイストを操作します（写真5参照）。

異形管の接合は2点引きが標準ですが、呼び径75と呼び径100では直管の受口あるいは既設短管の受口への接合に限り、継手が屈曲しないように異形管を押しえつけることで1点引きが可能です（写真6参照）。



写真5 2点引きによる異形管の接合  
(呼び径 250 曲管)



写真6 1点引きによる異形管の接合  
(呼び径 100 曲管)

**警告** スリングベルトは最大使用荷重 0.8tf 以上のものを使用して下さい。また、取扱いについては使用するスリングベルトの取扱説明書に従って下さい。

**警告** 管の接合途中、GX形チェーンレバーホイストが負荷状態のまま、接合しようとする管を大きく揺らさないで下さい。過大な負荷により、GX形チェーンレバーホイストが破損し重大災害を引き起こす恐れがあります。

**注意** 2点引きによる接合時は片引きにならないように、各GX形チェーンレバーホイストを均等に操作して下さい。片引きの場合、正常な接合が出来ない場合があります。

**注意** 継手接合手順の詳細に関しては、「GX形ダクタイル鉄管接合要領書」をご参照下さい。

### 3. 6 P-L i n kの取り付け方法

P-L i n kの取り付けは2点引きで行います。

切管挿し口側に2本のスリングベルトを巻き付けます。2本のスリングベルトは、それぞれのアイが管の左右に来るように巻き付けて絞ります。

P-L i n kにはG X形チェーンレバーホイストのフックをセットできるあなが2ヶ所あるので、管の左右に1台ずつG X形チェーンレバーホイストを取り付けます。

切管挿し口とP-L i n kが屈曲した状態にならないように、両側のG X形チェーンレバーホイストの引き込み量を調節しながら巻上げます。



写真7 P-L i n kの取り付け（呼び径100）

**警告** スリングベルトは最大使用荷重0.8tf以上のものを使用して下さい。また、取扱いについては使用するスリングベルトの取扱説明書に従って下さい。

**注意** 2点引きによる接合時は片引きにならないように、各G X形チェーンレバーホイストを均等に操作して下さい。片引きの場合、正常な接合が出来ない場合があります。

**注意** P-L i n k取り付け手順の詳細に関しては、「G X形ダクティル鉄管接合要領書」をご参照下さい。

#### 株式会社クボタ建設 営業部

〒273-0018 千葉県船橋市栄町 2-16-1  
TEL : 047-401-5003 FAX : 047-401-5004

〒660-0095 兵庫県尼崎市大浜町 2-26  
TEL : 06-6415-2018 FAX : 06-6415-2014